

## 「水草ハンター」が漕艇場を救う？ 100トン超を撤去

7/19(日) 15:00 配信

朝日新聞  
DIGITAL



戸田漕艇場で水草を刈る専用船

4月から5月下旬まで、約2カ月の使用自粛で例年以上の水草繁茂に悩まされていた「ボートの聖地」の埼玉県の戸田漕艇（そうてい）場の水草除去が先日終了した。緊急事態宣言解除後にボート部学生らによるボランティアが手作業で水草刈りを続けた後、仕上げには専門業者が専用船を3隻投入。1日あたり20トン前後という大規模な水草刈りを実施した。どんな方法で撤去するのか、現場をのぞいてみた。

【写真】刈った水草を船の後部から小型ボートに移し替える=埼玉県の戸田漕艇場

今回、水草刈り事業を受託した「ノダック（埼玉県さいたま市）」の協力を得て、作業中に小型ボートで出て、様子を間近で見せてもらった。

長さ約2千メートル、幅90メートルの漕艇場に大ききの違う3隻の水草刈り船が動き回る。名前は「アクアティック・ウィード（水草）ハンター」というそうだ。船の前方には可動式の Cutter があり、これが水深最大1・5メートルまで沈む。刈った水草はベルトコンベヤーのように動く台で船の後ろにため込まれる。ある程度たまると、小型ボートに移し替え、岸まで運ぶ仕組みだ。あとはクレーンでつり上げてコンテナに移す。